

有識者

下河原 忠道氏（株式会社シルバーウッド 代表取締役）

インタビュー概要

## 銀木犀の特徴

○銀木犀（同社が運営管理するサービス付き高齢者向け住宅）は、自分でやることは自分でやるというのはもちろん、仕事ができるというのがコンセプト。できないことをできないと決めているのは周囲の人間で、本人はできることがいっぱいある。生涯にわたって仕事をやり続けられる環境を作っていくことが重要。

○一階は全て無償のオープンスペースになっていて、駄菓子屋やランチの提供など地域住民にオープンにしている。立地も住宅街にあって、周りには学校もあり、子供達も多い。柵も設けないし、施錠もしない。地域とおじいちゃん、おばあちゃんが交流することが重要。

## 認知症について

○老いる過程が認知症という言葉で病気として扱われている。認知症の予防という言葉は、認知症への恐怖を煽っているようなもの。認知症を認めて共存しようという流れを強くしていく必要がある。

○認知症の人でもできる仕事はあるし、やりがいを感じている人も多い。認知症という課題を福祉や医療業界で解決しようという固定的な発想を広げて、一般企業や地域社会も含め、全方位的に可能性を広げていくことが今後の政策には必要。

## 看取りについて

○銀木犀では数多くの看取りを行っており、それを目当てに入居を希望する人も多い。

○病院で死ぬ以外の選択肢、自然に老衰死していくこともできるということを、本人の意思や家族の声等の事例を通じて地域住民に広めていかなければいけない。

## 介護の人材不足・育成について

○介護職の人材不足への対応は、介護職で働くのは素晴らしいことだと示す必要がある。看取りや地域との開かれた交流などもその一環であるし、働き甲斐のある職場でなければ、魅力発信は不可能。

○介護職員も、それぞれがマネジメントの視点を持つことが重要。離職の理由として多くみられる「経営方針」や「人間関係」などはマネジメントで解決できる課題。そのため、マネジメントの研修プログラムに力を入れている。

○外国人人材の受け入れは、本人たちよりも受け入れる日本人側の教育が大切。しっかりと日常生活のケアまでしなければ、日本を選んでもらえない。

○AIやロボットの導入は、技術ありきではなく、現場の課題を発見してから、その解決のために導入を検討するべき。